

小笠原市長2期目公約の 自己評価は？ 杉尾直樹



今年度、本市におけるまちづくりの指針「登別市総合計画第3期基本計画」が開始と

なりました。また、8月の市長選挙に向けて、小笠原市長2期目の公約検証のため、質問しました。

市長は、市民との対話や協議を重ね、次のとおりおおむね満足な行政運営を行ったと自己評価しました。

- ①津波避難計画の策定や総合防災訓練の実施など災害対応力の強化。
- ②広域連携での誘客促進や若年者等キャリアアップ・セリング事業の実施など市民生活基盤の確立。
- ③登別市めぐもりある福祉基本条例の制定

や高齢者の見守りのためのGPS機器貸与など安心して生活できる環境づくり。

そのほか、公民連携による総合的な都市経営については、より革新的な職員の人材教育が必要と考え、市長が率先して人間力の向上を図り、職員の手本となるべきとただしました。

公園管理と 観光客の市内誘客について 千田文孝



昨年、市が実施した子育て環境についてのアンケート調査では、「地域の自然環境を生

かした遊び場や公園が不足している」が29・6%と一番多く、市民からも「遊具が少ない、木陰にベンチがない」との声があることから、公園管理について質問しました。

市からは、次の答弁がありました。

- 公園の整備に当たっては、市街化区域内の公園の広さ、配置を整えるため、既存の「広場」の公園化を図ります。
- トイレや遊具のない公園、広場は地域ニーズや利用状況を勘案し設置します。
- 木陰はベンチの配置を意識した設置、あ

すま屋は地域ニーズに応じて設置を検討します。

そのほか、川上公園の破損・紛失した植樹オーナメントの修理を依頼し、ベンチなどの工夫、資金の調達を提案しました。また、市内への観光客誘客について、幌別駅に市内案内看板やパンフレットの設置、駅前モニメントの活用、市内の移動手段のPRを提案しました。

安定的で持続性ある 介護保険事業 辻弘之



介護保険法の改正により、登別市が自治体独自に介護予防給付に係る報酬額を決定して

いくことについて、「現行と同程度の維持は厳しい状況が予想される」とし、事実上、数年後には減額する可能性が高いとの考えが示されました。また、市内事業所との密

接な協議とサービス内容の丁寧な精査が必要と指摘し、今後、事業所を交えた協議が行われることになりました。さらに、介護人材不足が危機的状況になることをかんがみて、事業所の自助努力のみならず、介護保険者である自治体も積極的に人材確保対策に取り組むことを強く求めました。

そのほか、市長2期目の総括として、地方創生にかかわる現在の政治姿勢が、「民間経営概念」を十分に生かした活動になりかけていないことを指摘。市長は、残された任期を全力で取り組みつつ、3期目を見据えながら原点となる政治姿勢を見つめ直していくとの答弁でした。

予算・決算委員会（平成28年度補正予算審査）

千田文孝

消防支署新庁舎建設事業費について、早期に供用開始するため、基本設計などで60万円の追加予算が要求されました。

基本設計の内容、期間と供用開始までのスケジュールを確認したため、当該個所の測量と地質調査のボーリングの結果を踏まえ、基本設計を7カ月で行う予定です。スケジュールは、平成29年度で用地取得・設計、平成30・31年度で予定地の造成・建設、平成32年6月供用開始で進めます。

平成28年第2回定例会における 議案の賛否状況（挙手採決議案のみ掲載）

議案	賛成議員	反対議員	結果
登別市行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律に基づく個人番号の利用及び特定個人情報の提供に関する条例の一部改正について	井野、木村、佐藤、千田、戸井、二瓶、村井、若	栗藤、杉尾、田山、成松、山田、米	可決